なかま

青森県立大湊高等学校　東京同窓会

第38号

平成30年度
2018年
6月30日発行

Contents:

P2 近況雑感・鎌倉、井の頭散策
P3 東京同窓会この一年
P4～5 下北逍遥・佞武多
P6 大湊ねぶた合同運行委員会
P7 ふるさとの本紹介
P8 同期会便り

日本の金融機関の課題―資金決済サービスとキャッシュレス化への対応

会長　三山　修（第20期）

欧州では30年以上前から、EU加盟国では、買い物に現金ではなく、JRの「Suica」と似た「BANKOMAT」（バンコマート、デビットカード機能を持つ）と呼ばれるカード（ドイツではECカードと呼ぶ）で決済し、ATMで現金も引き出すことができる資金決済サービスが導入されている。このカードはEU加盟銀行に預金口座を持っていると自動的に発行され、キャッシュレス化にも寄与している。日本の金融機関が発行する「キャッシュカード」には現在でもこのような機能はない。

欧州の金融機関は、資金決済サービスを「顧客情報」を多元的に得ることができる重要な業務として当時から注力しており、各種公共料金支払いも含め消費者にとっても金融機関は資金決済・支払いでの重要な役割を果たしてきた。

残念ながら日本の金融機関は顧客からの必要性には目を向けず、期待収益が望めないとの経営判断で資金決済サービスの高度化には関心が低く、消費者への斯業務の主体はノンバンクといわれるクレジット会社、デビットカード発行会社、アマゾンや楽天などの通信販売決済サービスが担うことになった。

訪日客のインバウンド消費（日本国内での消費）において、キャッシュレス化の遅れが理由で購買意欲を減退させることが問題となっているが、中国で急速に普及するQRコード決済は「屋台」での支払いにも利用できるほど発達している。日本での対応はこれまで大手百貨店に限られ、金融機関が関与することはなかった。

今日、資金決済サービス、キャッシュレス化、更に金融IT化は表裏一体で日進月歩の成長分野になっており、この分野において、日本の金融機関には、欧米や中国などとの競争に負けないよう、NHK番組「チコちゃんに、『ボーっと生きてんじゃないよ！』」と言われかねない状況からの脱出に、危機感を持ち、奮起を期待したい。

ご挨拶

校長　下川原　堅藏

東京同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に特段のご理解ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

今年四月、神前校長の後任として本校に赴任して以来、同窓会役員の方々とは幾度となくお目にかかる機会があり、その都度、母校に対する愛情の深さを感じて参りました。おそらく、東京同窓会の皆様をはじめ全ての同窓生が、役員の皆様と同様に、変わらぬ愛校心を抱き続けているのではないかと思っております。

「環境が人を育む」といわれますが、本校は、皆様ご存じのとおり、陸奥湾を眼下に、釜臥山の緑豊かな丘陵地に位置しています。文字どおり自然の恵みを受け、豊かな人間性を育てるには最適の教育環境にあります。

むつ湾から見た釜臥山（下川原校長撮影）

本校に赴任してまだ二ヶ月ですが、私は大高生に無限の可能性を感じています。

なぜなら、生徒たちの爽やかな挨拶、まじめな学習態度、活気あふれる部活動、そして生徒たちのために勉強でも部活動でも本当に熱心に取り組んでいる先生方を毎日見ることができているからです。私と同じように地域の人たちも、同窓生の皆様と同様に大湊高校を愛し、関わりを持ち続けたいと思っているのではないでしょうか。

大湊高校は今年度創立七十周年を迎えました。昭和二十三年度に定時制課程普通科として開校し、平成十四年度から「地域とのつながりを大切にする」下北で唯一の総合学科として現在に至っております。

学校としては、生徒一人ひとりを大切にするとともに内に眠っている可能性を引き出し、伸ばしてあげることが私たち教職員に課せられた使命であり、その責務を果たすことが大湊高校のますますの発展につながるものと思っています。

そのためにも、同窓生の皆様をはじめ大湊高校に関わる全ての人たちには、今後とも揺るぎない大高愛で本校の教育活動を応援していただくことをお願い申し上げます。

管見拙語

棟方志功は知っていても棟方末華（まつか）を知っている人は少ないのでは。共に版画家で生家も近いが姻戚関係はない。昭和16年に志功と共に「日本版画院」を創設するなど親交は深かった。板を彫る「版画」の芸術性を尊重し、量産の意を含む「版」ではなく「板画」であるとする点でも志功と共通する。末華は大正2年青森市に生まれ、青森刑務所に勤務していたが、昭和14年府中刑務所に転勤になり、その頃から本格的に版画に取り組んだ。武蔵野の自然や名所旧跡を題材に、記録するように細部まで詳細に描いた作品の他、故郷・青森を愛し続け「奥入瀬渓流」や「ねぶた祭」などの作品も残している。■一方の志功であるが、下北との関わりもあり、昭和29年に東奥日報のインタビューに「脇野沢に住んでいた姉の夫にたのまれて『鬼若丸』というネブタを作った」と答えている。これが何年の事かは不明だが、昭和4年夏には、長姉ちゑが嫁いでいる義兄に誘われ脇野沢に船で祭りを見に来ている。又、戦後一時大湊の山田で暮らしていた。志功夫人チヤさんの父親が山田にいて、そこに居候していたらしい。あちこち出掛けては絵を描き、子供達から変なおじさんと呼ばれていたという。大正時代から親交のあった古藤正雄氏宅も訪れていて、古藤家に志功の絵が残っている。更に昭和59年の「グラフ青森　別冊ねぶた特集」に川内の寺田徳穂さんの話として「棟方志功がまだ全く売れていない頃、桧川（川内町）へきてねぶた絵を描いていた」という話が載っている。山田にいた頃の事だろうか。写真とか残っていればと思う。全く「管見拙語」になっていませんが、ご容赦を。（Y・T）

近況雑感

人生の第4コーナー

顧問　佐々木 彦藏（第7期）

親しい人の他界は大きな悲しみをもたらす。とりわけ同級生の永眠は、傘寿を超えた老輩にとって、とても淋しく厳しいショックを受ける。「次はお前だよ」と通告されたみたい。

三月十五日、大湊小学校一年生の時からのクラスメート小笠原威美君が胃ガンで亡くなった。

何年も前から腰痛で悩み、十和田にある整形外科病院に、年に何度か通っているということは本人から聞いていたが、まさか胃ガンで逝くとは。それも病気が分かって半年もしないでの急逝。衝撃である。

三月十七日、大平の「照月苑」で行われたお通夜と翌日の告別式に参列した。頂いた「御会葬御礼」のカードに喪主彰子夫人の次の言葉があった。

「海上自衛隊を定年まで誠を尽くし　家族を守ってくれた夫　また長い間　同僚やご近所の多くの方々と良きご縁を紡いで参りました　結婚して五十年以上もの月日が経ちましたが　振り返ってみれば　夫の温かな心に支えられて家族がここまで来ることが出来たのだと感謝の気持ちでいっぱいです（以下略）」

切々と追憶のお気持ちが書かれていた。夫人は、お通夜の朝、心労で倒れ、救急車でむつ病院に緊急入院。通夜も告別式も娘さんが喪主代理のご挨拶をされていた。

去年の六月、膵臓ガンで他界された東京同窓会副会長大林美代子さんに続く同級生との淋しい別れであった。

★

昭和十年生れの我々は、太平洋戦争開戦の四カ月後に小学校に入学し、四年生で終戦を迎えた。

三食を欠くような戦後の食糧難の時代を経験し、就職難・集団就職時代を乗り越え、その後の人生を切り開いてきた。

ここに、昭和二十六年三月、大湊中学校卒業時の名簿がある。

6クラス256名の同期生のうち、既に鬼籍に入られた人が分かっているだけで60名おり、名簿に赤字で記入してある。

残り196名のうち住所の分かっている人が87名。分からない人が109名である。分からない人の半分以上が他界しているかもしれない。

「人生八十年時代」という言葉があるが、みな今年中には八十三歳になる。

まさに人生の第4コーナーを回って、嫌なゴールが目の前にあるようだ。

「散る桜　残る桜も散る桜」か。

★

明治に生まれた父母は、「明治・大正・昭和」を生き、昭和に生まれた我々は「昭和・平成」を経てきたが、来年四月三十日で「平成」も終わる。

来年六月の東京同窓会総会の頃、どんな元号になっているか、今は誰も分からない。

（追記）

今日は、朝からNHKで放映の衆参予算委員会「加計問題」集中審議を見ながら原稿を書いてきた。誠意も真実吐露のカケラも見えない政府と改ざん・ソンタク役人の答弁の連続。

この国は、どこへ行くのだろうか？

（30・5・14記）

東京同窓会二十九年度文化行事

逢坂誠一郎（第31期）

その一　古都鎌倉散策

二〇一七年一〇月二十一日（土）、古都鎌倉散策を東京同窓会行事として行いました。同窓会行事として鎌倉を訪ねるのはこれで2度目となります。当日は暖かな小雨の中二〇名の方が参加くださいました。案内は鎌倉検定2級合格者である逢坂が務めました。コースは次の通り。

大江広元墓所

頼朝公墓所入口白旗神社

頼朝公墓標

創業三百年権五郎力餅

紫陽花から萩へ　成就院

藤沢駅集合

藤沢駅・集合＝極楽寺・拝観--極楽寺トンネル--日応極楽寺坂切り通し--成就院--星の井--力餅家・権五郎力餅--長谷寺--長谷駅＝鎌倉駅--ラングドン ウォーナーの碑--鎌倉宮・拝観--法華堂跡--大江広元・島津忠久墓所--源頼朝墓所--鶴岡八幡宮--鉄の井--寿福寺--ホテルニューカマクラ--問註所跡--津久井・食事--鎌倉駅・解散

朝10時に藤沢駅に集合。極楽寺切り通し坂下の力餅家で権五郎力餅を食べ、昼食抜きで名所・旧跡を回りました。特に普段は観光客が訪れない源頼朝公の墓碑や明治の神仏分離令で取り壊された法華堂跡なども見学。反省会は鎌倉の隠れ家的存在のお好みや・津久井さんで美味しくお好み焼きを頂き楽しいひと時でした。

散策後の楽しいひととき

その二　井の頭公園散策

二〇一八年二月十七日（土）、昨年開園百周年を迎えた井の頭恩賜公園を散策しました。十一名の方が参加くださいました。案内は井の頭公園検定2級に合格している逢坂が務めました。コースは次の通り。

三鷹駅南口集合--太宰治文学サロン--玉川上水--万助橋--ジブリの森・外観見学--第二公園--西園--井之頭会館--黒門--参道--弁財天--井泉亭・休憩--水生物園--お茶の水--池周回--かいぼりステーション--神田川源流--七井橋--七井橋通り--まりあ・食事--吉祥寺駅・解散

昼過ぎ13時に集合し、太宰治ゆかりの地を見学しました。その後、弁財天の参道入り口にある江戸の芝居小屋の役者の名前が刻まれた碑を見学。弁財天入り口の江戸紫縁の紫灯篭に刻まれた地名を指でなぞり、日本橋と刻まれた灯篭で問屋の旦那衆の名前を確認しては往時を偲びました。

反省会は、都会の中にひっそりと佇むお好み焼きや・まりあさんで、食べきれないほどのお好み焼き、野菜炒め、ホタテ・イカ焼きと焼きそばを頂きました。

東京同窓会この一年

29年7月15日
＊理事会・市ケ谷「つだがわ」
＊出席9名
＊総会総括（次年度への申し送り事・検討事項等）・年会費納入者等への総会資料送付等
＊新卒者・激励会参加促進対策
＊納涼会に代わる行事検討

29年9月24日
＊高窓連バーベキュー大会
＊国立昭和記念公園
＊参加13名。

初参加の森睦子さん（28期）準備から料理まで大活躍！
相変わらず元気な二人の長老。故大林さんもお山から写真参加。
今年も無事終了。西立川口で記念撮影。

29年10月21日
＊東京同窓会本年度第一回文化行事「古都鎌倉散策」（2ページ参照）
＊参加20名

29年12月2日
＊理事会・役員有志忘年会
＊四ツ谷・UFJ銀行施設「番町分館」
＊参加10名
＊新年会の日程・会場決定

30年1月20日
＊役員有志新年会
＊銀座・音楽ビヤホール「ライオン」
＊参加11名

上：左・舞台で出演者といっしょに　右・外観と本日の出演者
下：左・今年もよろしく、さア帰ろう　右・カメラこっちですヨ

30年2月17日
＊東京同窓会本年度第二回文化行事「井の頭公園散策」＊参加11名
＊三鷹駅南口集合→太宰治文学サロン→玉川上水→万助橋→ジブリの森外観→第二公園→西園→井之頭会館→黒門→参道→弁財天→井泉亭→水生物園→お茶の水池周回→かいぼりステーション→神田川源流→井橋→まりあ（食事）→JR吉祥寺駅・解散

30年4月1日
＊東京下町県人会主催・花見の会
＊江東区・東京都立猿江恩賜公園
＊役員・有志12名参加

会旗を囲んだ恒例の集合写真
お馴染み伊勢ケ浜部屋のお相撲さん

太宰治文学サロン
太宰の小説『十二月八日』に名前が出てくる「伊勢元酒店（写真では商店）」跡地に建つ「太宰治文学サロン（三鷹市下連雀3-16-14グランジャルダン三鷹1階）」前で、当日最初の記念撮影

30年5月12日
＊理事会・南武線「向河原駅」集合
＊総会会場「NEC玉川クラブ」視察・二次会会場等確認
＊新卒者の優遇措置等検討

30年5月19日
＊理事会・西麻布・畑中顧問邸
＊出席9名
＊総会案内状発送業務
＊寄付金納入者の顕彰方法等

600通余りの案内状を出し終えて…

30年6月9日
＊理事会・市ケ谷「つだがわ」
＊出席11名
＊総会の最終打合せ。
＊総会次第、議案、当日の役割分担、配布物等用意するもの及び担当の確認等
＊新卒者・来賓・本部同窓会からの出席者確認
＊二次会会場、会費、役割等確認
＊新役員の追加検討

30年6月30日
＊30年度定期総会
＊NEC玉川クラブ
＊新卒者激励会・懇親会
＊機関紙「なかま」38号発行

東京へ下北を贈ろう！
なまこ・ほたて・菜の花商品・海産物全般
有限会社　すぎやま
青森・下北ふるさとの会
青森県上北郡横浜町字大豆田127
TEL0175-78-2080・FAX0175-78-6051
URL：http://tpsun.jp
E-Mail：info@tpsun.jp
My E-Mail：sugiyama@tpsun.jp
代表　杉山　徹　第22期生
Travel Plaza SUN・SHINE
Aomori-Pref Yokohamna
本州のテッペン下北半島

大正・昭和初期の大湊ネブタ

＊大正11年の3枚が残っているうちでは最も古いのですが、諸般の事情で掲載できませんでした。

昭和5年大平義友郷会「加藤清正と和田平兵衛」川口鉄太郎作
大正15年上町盛年團・題名不明　川村福次郎作？
昭和12年下町（浜町）一心組「渡辺 綱？」作者不明
大正15年宇田青年会・題名不明・川村福次郎作

佞武多三題

武多 川内佞武多　田名部 子供ねぶた

浦、大間、佐井、脇野沢、東通の各集落、横浜町の浜田～
田では途絶えていたねぶたを子供たちが喜ぶならと昭和47
を作っていた)を講師に講習会を開き、以来復活した話、
扇・蕪・鯛の3台のねぶたを出し、『其の彩色と云ひ造り方
話等々が伝わっています。特に大湊のねぶたは昭和60年
ディアや観光案内でも着目されるようになってきました。ま
他地域との製作者同士の交流も進みつつあります。
選考基準に、青年団や町内会が主体となって行われてきた
この田名部を取り上げました。あと少しでねぶたの季節です。
ーロレロトレーロレ♪

年頃・大平村)
治33年？・下町)
多史絵巻解説〟より

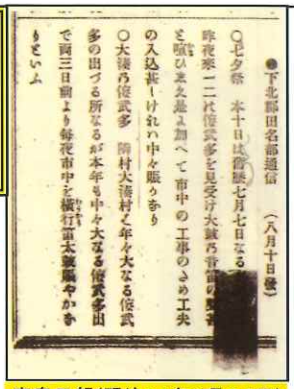
最初の回転式佞武多
昭和31年・大平「帝釈天と阿修羅王」(伊藤一・作) この後次第に回転が大湊ねぶたの大きな特徴となっていく

平成28年大湊上町
「陰陽師 安倍晴明」大久保洋史・作

平成26年城ヶ沢
「飛将呂布」工藤利博・作

平成8年大湊浜町
「鳴神上人昇天」工藤巧・作

平成2年文京町
「那須与一崇高」鈴木司・作



●下北郡田名部通信　（八月十日發）

○七夕祭　本十日は前號七月七日なる
昨夜來一二代佞武多を見受け大誠乃賑ひ
と喧ひまえ是入詣へて市中の工事のゝめ工夫
の入込甚しけれい中々賑うあり
○大湊乃佞武多　隣村大湊村く年々大なる佞武
多の出づる所なるが本年も中々大なる佞武多出
で両三日前より毎夜市中を横行(ヨコヤリ)富太鼓(ヒタイコ)ゆかま
もといふ

東奥日報(明治24年8月14日)

第34回子どもネブター一覧（合同運行順）

昭和60年の「むつせいけい新聞」この年は37台出ていた

田名部子供ねぶた

今年で67回目を迎える田名部の子供ねぶただが、「出せ、出せろうそく出さねばカッチャクど」―こういうハヤシ言葉を健全化しよう―と子供たちだけでやっていた七夕のねぶたを、公民館が音頭を取ってやり始めたのが昭和27年。この年から67年目である。

それ以前はというと、東奥日報に、すでに明治24年に、大湊のような〝大なる佞武多〟ではないが、〝一二の佞武多を見受け〟たとある。優に120年を越える歴史のある子供ねぶたである。

昭和28年に「桃太郎」の人形が出たと新聞記事になっているくらいだから人形は珍しく、基本は扇型のようである。昭和30年代には20～30台、40年代から50年代に掛けては30～40台出ていた。

開催日は8月5日から7日の3日間が多かったが、2日間の年もあれば、4日間の年もあった。最近は7月末に行ったりしている。

平成26年(2014年)黒石の絵師・飛翔さんが描いた扇ねぶた「真田幸村　家康本陣突入」

平成25年(2013年)の人形ねぶたと扇ねぶた

平成26年(2014年)の人形ねぶたと扇ねぶた

、伊藤一、祐川栄三郎、佐々木岳史)の作品ピックアップ

の大蛇」

戻」

祐川栄三郎

昭和39年市消防団「村上義光吉野の関」

昭和43年海上自衛隊「日本誕生」

昭和46年海上自衛隊「三国志」

平成4年桜木町「為朝大鷲を射つ」

佐々木岳史

平成24年大湊上町「三貴子」

平成27年大湊上町「大元師明王」

下北逍遥　下北半島の侵　大湊侵武

川内侵武多

川内侵武多は明治20年代には出ていたようであるが、確証がないという。明治40年には出ていた確実な資料があるということなので、そこを起点とすると100年以上になる。

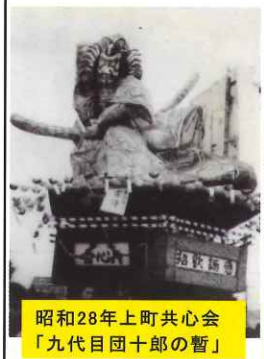
開催日は昭和24年は8月7・8日だったが、翌25年からは14・15日(16日と3日間の年もあった)でほぼ固定している。参加台数は4台の年もあったが、7～8台の年が多い。昭和35年には大小合せて24台出ており最多、次が昭和54年で14台。この年は川内高校が独立校になって2年目で同校から2台参加している。

賞もあり、昭和25年には①仲崎町「明智左馬之助」②上町「鳴神」③新町「仁田四郎猪退治」が受賞している。又、大湊などの人形で参加する団体が増えた為、自作奨励を意図した「自主製作賞」を設けた時期もある。最近は浜町・共生会が高欄も開きもある川内侵武多本来の形を継承して自主製作を続けているし、平成28年から新町・新盛会も自主製作侵武多で参加している。

川内侵武多の形(昭和28年)

昭和28年、大湊米穀商組合の「森蘭丸本能寺奪戦」(祐川栄三郎・作)が川内に登場した。写真で確認できる嫁入りねぶたの最初の例。

ねぶたは下北のほぼ全域で行われています。大畑、風間
有畑間運行等々。ほとんどがいわゆる子供ねぶたです。大
年に公民館主催で大畑小の松尾精一先生(大湊小でねぶた
大湊では明治34年に宇田に工事に来ていた津軽の人達が
と云ひ流石は本元なる弘前名物丈けありと皆鑑賞せし」
に「大湊侵武多百年」記念誌が発刊されて以来、次第に各
たむつ市からワ・ラッセの下絵コンクール入賞者も出ました。
「下北逍遥」5回目は、百年以上前からあったことの確証を
大人ねぶた(とでも言いましょうか)の大湊と川内、子供ねぶた
ふるさとのまつりの盛況と今後の発展を祈って・・・。♪ トレー


昭和28年上町共心会「九代目団十郎の暫」

昭和34年熊谷工務店「牛若丸と弁慶」

昭和23年上町少年団「猪退治」

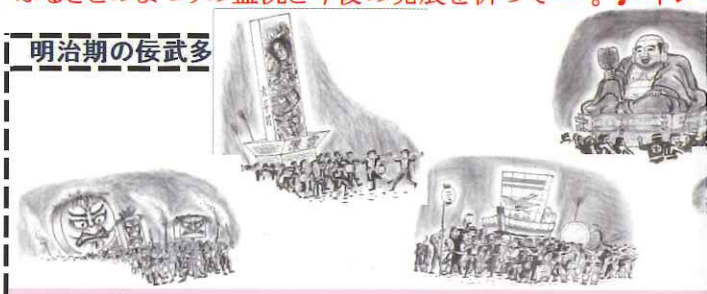
⇐左
平成21年
浜町・共生会

右⇒
平成27年
浜町・共正会

昭和40年宿野部のねぶた

平成28年新町・新盛会「大国主命」

明治期の侵武多



左から ①坂上田村麿伝説 ②瀬波屋の屋根に登り燈を灯した大灯籠(明治20
③船山車のような侵武多(明治25年頃) ④人形侵武多としては初期の布袋(明
⑤世相を反映した侵武多「大碗丸鳥・二本大鰹」(明治28年・下町)

「大湊侵武多百年」誌〝大湊侵武

平成29年大湊新町「風神雷神」川名貴治・作

平成29年桜木町「赤兎馬　関羽」川村順司・作

平成22年旭町「能舞　鐘巻」坂田剛・作

平成20年山田町「九紋竜史進」三國徹・作

平成期の大湊侵武多

大湊侵武多・人形製作の伝統を築いてきた歴代四名人(橘忠治

橘忠治

昭和35年大湊新町「鞍馬天狗」

昭和57年大湊新町「紅葉狩り」

昭和37年大湊上町「勧進帳」

昭和59年大湊新町「和藤内」

伊藤一

昭和40年大平町「玉藻の前」

昭和48年大平町「八

昭和42年大平町「助　六」

昭和59年大平町「

写真提供及び協力者(順不同):畑中俊彦、大久保洋史、立花善雄、佐々木彦藏、祭礼山車研究会

大湊ネブタ祭　合同運行委員会のこと

顧問　佐々木 彦蔵（第７期）

「大湊ネブタ」…大湊で生まれ育った人にとって、この言葉はどんな思いをもたらすのだろうか？

幼少期にネブタの綱を曳いた思い出。中学生の時に祭に参加し大太鼓を力一杯叩いたり、横笛を吹いた記憶を呼び起こす人。祭の半月以上前から、夕方になると町内に太鼓練習の音が流れていたこと。あるいは三日間の祭が終わったとたん、秋風が身に沁みたことなど・・・人さまざまである。

明治時代から連綿と続いてきたこの伝統の祭りは、戦後も長い間「青年団」がその任を担ってきた。

今や「青年団」という言葉を聞くことも無くなり、死語になったようであるが、今から五十余年前、大湊を離れるまで「青年団とネブタ祭」に関わってきた者として、少し思い出してみたい。

★

独身時代の昭和三十五年の正月が過ぎた頃、住んでいた川守で、今年の夏のネブタに、「川守はネブタを出せないことになった」という噂が町内に広まった。

前の年のネブタの時に、青年団に会計上の不始末があり、青年団を解散してしまったためだという。

それまで、青年団に入団を勧められても、「ネブタとトランプしかやらない青年団に何の魅力もない」と断っていたのであるが、ネブタ祭への不参加は大問題。町内の子供たちのことを考えると何とかせねばと思い、近所に住む同級生に呼びかけ、急遽「川守青年団」を再編、立ち上がることにした。

吉田満昭、佐々木睦夫、吉岡喜一、佐々木等君の面々である（この仲間、当時、全員が25歳の独身であったが、今やみな他界してこの世にいない）。

これが、自分が青年団に関わり始めたきっかけである。

★

この素人集団が、町内の先輩に教えを乞いながら二ヶ月ほどかけて、形も小さく余り上手とは言えないネブタ人形を完成させ、祭に参加した。

ところが、製作中の飲み食い経費がほとんど掛からなかったので、頂いたご祝儀でかなりな黒字になった。赤字になった前年と大違いである。

そこで、この黒字を町内に還元する方法はないかと相談した結果、町内に住む小学四年生から中学三年生までの子供たちを一泊キャンプに連れて行くことになり、回覧板で募集した。キャンプ場所は、町内から直距離三〇〇メートル程の海を渡っての「芦崎」の先端である。

勤務先の総監部から四～五人用のテントを数張り借り、町内にある手漕ぎの伝馬船（？）で、応募してきた子供たち十数名を運んだ。

芦崎の砂浜で相撲を取ったり泳ぎを教えたりして遊び、晩御飯を食べた。

暗くなってから盛大にキャンプファイアを燃やしたら、これが宇田から大平まで大湊全町から見えて、なんだろうと大騒ぎになった。

あとで、新しい川守青年団が、ネブタの黒字還元でやったということが知れ亘り、一躍有名になってしまった。参加した子供たちから集めた名前を書いてもらった伝票が今も残っている。

中学三年・藤田邦穂（大高十六期）、中・鳥谷部健司・佐々木則道（十八期）、小六・伊勢隆・渡部邦夫（十九期）、小五・佐々木鉄男（二十期）、小四・川島俊通（二十一期）、柳谷力（二十二期）さんなどである。これら大高同窓生の皆さん、当時の記憶があるでしょうか。

★

戦後、隆盛を誇った「青年団」活動も、社会全体の大きな変動を受け、集団活動忌避など青年意識の変化、青年層の地元離れ・流出等をもたらし、各町内にあった青年団も次第に衰退、消滅しつつあった。

ネブタ祭を主催していた大湊町連合青年団の記録を見ると、この年三十六年の合同運行には8団体が参加しているが、宇田、川守、上町のみが青年団参加、下町（浜町）、新町、元町（大平）一本松（文京町）が町内会参加、それに大湊小学校の8団体である。

合同運行に関する会議の場でも、実際の運行実態をみても、青年団の権限や発言力が小さく、町内会側の力がいかに強いかということを痛感させられた。

合同運行委員会発足当時の資料

★

昭和三十六年の連合青年団総会で副団長に選ばれ伝法幾代治団長を補佐したが、翌年、団長になったので、より一層町内会と連携を強める目的で「合同運行委員会」の設置を諮り、昭和三十七年七月十七日の総会で決定した。

会則第3条に、委員長は「大湊連合青年団長」がなり、副委員長を二名置き、「連合青年団副団長」と「各団体の互選による者」を充てるとした。

自分が初代委員長になり、当時、連合青年団副団長だった工藤軍治さん（城ヶ沢青年団長）と新町町内会長だった飯田清三郎さんが選任された。

こうして、現在に至る「合同運行委員会」がスタートしたのである。

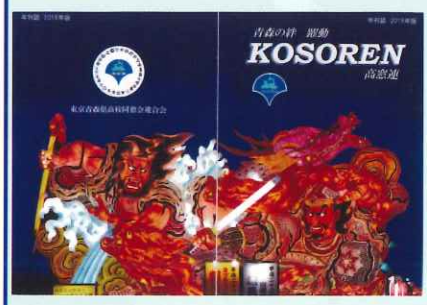
（30・5・6記）

後列左より：飯田清三郎、小川健、布施力松、高野敏昭
前列左より：飛内光一、佐々木彦蔵、木村弘、相坂国松

昭和３７年合同運行委員会

トピックス

東京青森県高校同窓会連合会（高窓連）が結成二十周年を迎え、従来の機関誌『かわら版』を年刊誌『KOSOREN』と名称・内容を一新しこのたび発行された。その記念すべき第1号の表紙に、平成二十六年の大湊上町町内会のネブタ、最優秀制作賞と市議会議長賞を受賞した「入雲龍公孫勝と混世魔王焚端」（佐々木岳史他有志一同制作）が採用された。



事業所や学校等が出した大湊ネブタ

昭和５９年 むつ市職員互助会「宮本武蔵」猪口・中村・鳥谷部 作

昭和４７年　働く若者の会「三 国 志」 作者不明

昭和２９年　大湊機関区「日吉丸と蜂須賀小六」佐々木信夫作

昭和２７年　大湊小学校「那 須 与 一」松尾正作

昭和２３年　大湊機関区「中大兄皇子蘇我入鹿を誅す」佐々木信夫作

ここに載せた他にも自動車区（現JRバス）、工藤航機、日本通運、函館ドック等がネブタを出しておりました。

昭和２２年　大湊駅「静 御 前」作者不明

昭和６３年 日本原子力研究所「鐘 巻」ネブタ実行委員会

昭和５８年 東北アツギ 「家康 三方ヶ原の戦」小川重芳・鳴海松雄作

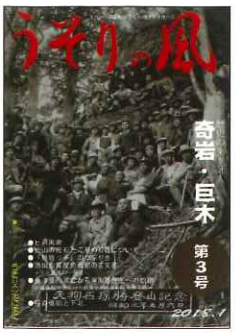
昭和４０年　むつ市消防団「楠正行と高野師宣」柳谷力作

昭和２８年　大湊電報電話局「清水一角最後の奮戦」作者不明

昭和２５年　大湊小学校「新田義貞」松尾正作

ふるさとの本紹介

「うそりの風」第3号



巻頭記事「奇岩・巨木」の最後7ページに〝本誌「ヒバ再考」、「恐山の鬼石と二基の石龕」、「誌上ギャラリーうそりのまにまに」も併せてご覧ください〟とあります。ここは敢て〝「なかま」36号の「下北逍遥」も併せてご覧ください〟と書かせていただきます。

「うそりの風」3号は「下北逍遥」のテーマでもあった「奇岩・巨木」に始まり、下北の樹木を代表するヒバの話「ヒバ再考」、前出「恐山の鬼石…」、「下北海運」、「会津藩～斗南藩」、「笹森儀助」、さらには2号の「下北のもち」の実践編的内容を含む「『戦後っ子』のつぶやき」等々多彩な内容である。表紙を飾るのは貴重な昭和三年の天狗岩登山記念写真。ここに写っている人物は数名しか判明していないそうである。

A4版・96ページ　千円（税込）
発行・問い合わせ先
うそりの風の会　事務局
〒035－0076
青森県むつ市旭町10番33号　工藤和彦方
電話&FAX　0175・34・9786

「続下北地域史話」

三浦　順一郎　著

36号で紹介した「下北地域史話」の続編である。〝今回は大それた歴史評論や論文はない。各地域の逸話を紹介したものが多い。―中略―興味のある個所から気楽に読んでいただければ、幸甚である（まえがき）〟〝写真と図表を可能な限り掲載し、「見る」地域史話に挑んだ（オビ）〟。この意図は成功していて、地域編・「達」にみる小事件・斗南小話・海運編・資料編の五部構成にはなっているものの、一編が短く写真や図が増えたので目で確認しながらどこからでも読める。

210～298ページに掲載されている「寺田徳穂が描いた民具図」は、全図をまとめてこの本で簡単に見れるようになった。

A5版・325ページ　二千円（税込）
発行・問い合わせ先
三浦順一郎　自費出版
〒035－0094
青森県むつ市桜木町1番7号
電話　0175・29・4215

「写真アルバム　上北・下北の昭和」

「なつかしきあの日、あの時。心に残る思い出が今よみがえる。写真が語る上北・下北の昭和！（オビ）」だそうである。古い写真をよくここまで集めたものである。茶飲み話の題にして懐かしがるのも見方の一つかとは思うが、下北の人は上北にも、上北の人は下北にも関心を広げるとか、この時代を生きてきた人から若い世代へ語り継ぐべき事柄のテキスト的活用も有り得るだろうから、そうすれば、安いとは言い難い代金も生きてくるのでは。懐かしがるためだけに見るのは些か勿体ない。

巻頭のカラー写真をはじめ余り鮮明でない写真は、現在のコンピューター技術でもう少し鮮明にできたのではないかと思えるのと、解説文に疑問符を附けざるを得ない箇所が見受けられたのは少々残念である。

A4版・279ページ　9250円（税別）
発行・問い合わせ先
発行・㈱いき出版
発売・青森県図書教育用品㈱
〒036－8094
青森県弘前市外崎3丁目3－22
電話　0172・27・8811（代）

「藤巻健二・写真集」

群馬県に生まれ、青森高校で寺山修司や沢田教一と同期だった藤巻健二は高校卒業後、東奥日報社の報道カメラマンとなりその後フリーになった。60年以上撮り続けた膨大なフィルムの中から、Ⅰ映画「八甲田山」・Ⅱ青森ねぶた・Ⅲ60年前の青森高校・Ⅳ懐かしの学校・Ⅴ人々の暮らし・Ⅵ行き交う人々・Ⅶ街の風景・Ⅷ藤巻健二の世界、の八部構成で昭和30～40年代の青森市を中心に330枚を解説付きで編集したのがこの写真集。Ⅱの青森ねぶたに最も多くのページを割り当てているが、中でも昭和39年に行われた最後のねぶた流しの写真は、ねぶた流しの映像記録が他に無いだけに貴重な資料である。下北関係は恐山が5枚載っているだけだが、出版元の『青森まちかど歴史の庵「奏海」の会』の紹介も兼ねて取り上げた次第。『青森市の歴史資料の蒐集・展示を行う人々の情報交換と交流を行う』ことを目的の一つとして収集展示活動している会で、下北にもこういう場があってもいいと思う。当面「うそりの風の会」と安渡館に期待。

A4版・192ページ　二千円（税別）
発行・問い合わせ先
青森まちかど歴史の庵「奏海（かなみ）」の会
〒030－0802
青森市本町二丁目1番10号
電話&FAX　017・777・0856

「青森県史」全36巻完成

青森県史通史編1「原始・古代・中世」2「近世」3「近現代・民俗」の三巻が三月刊行された。これで平成八年度から足かけ二十三年に及んだ県史編纂が資料編25巻、民俗編3巻、文化財編2巻、自然編2巻、別巻1巻、それに通史編3巻の全36巻を刊行して終了した。「青森県史叢書」13巻も刊行されている。青森県内主要書店ないし青森県図書教育用品㈱（3段目参照）の通販で購入できる。品切れの巻もあります。

カウンター
飲食
送迎
各種ご宴会
卒業・入学祝い
承ります
掘りごたつ
宴会場
青森県信用組合 大湊支店
酒蘭
旅館 富岡荘
大湊駅
日替ダイニング
酒 しゅらん 蘭
寿司職人の dining居酒屋
全ての宴会にお寿司 or のり巻が付きます
宴会 2時間　料理・飲み放題 4.000円～
料理・飲み放題 3.000円～ (+1.000円で1時間延長)
女子会 3時間 3人以上
大湊高校OB限定割引あり（自己申告）
むつ市大湊新町3-6
TEL0175-24-1791
懐かしいふるさと
大湊新町でタイムスリップしませんか？
のみ放題プラン お一人様4.000円から
炭火焼き鳥・牛舌焼・味噌貝焼き
刺身・馬刺し・焼き魚・季節鍋物
もつ煮込み・キムチ他
地酒・お食事・そば・うどん
大湊駅から 徒歩三分三善通り入口
炭火焼の店 居酒屋 伝ちゃん
第2木曜日定休日
むつ市大湊新町20-31
TEL・FAX 24-3729
姉妹店
スナック ぼたん
居酒屋メニューで楽しい宴会できる店
お一人でもお気軽においでください
むつ市大湊新町20-1
TEL24-2681
商工会議所・観光協会・自衛隊協力会・警察署友の会・大湊料理飲食店組合 会員の店

同期会便り

〝あしざき会〟2017夏の集い

畑中皓二（第5期）

あしざき会は、大湊小・中・高校を母校とする大高五期中心の同期会です。

毎年、同日時（八月十七日）、同場所（プラザホテルむつ）で行っています。

この要領で実行して今年（2018）で六回目です、二十名を目標にしていますが、三回目迄二十名を維持しましたが、一昨年十六名、昨年十八名でした。会の維持の目標…取り敢えず、東京オリンピック、そして目出度い米寿を目指します。

健康で長生きしましょう。

「安堵会」二〇一八年春の集い

富澤千里（第16期）

大湊湾の古い呼称「安堵湾」を会の名前にして、二〇〇九年から年に一度開催している同期会も、回を重ねて今年は第九回目になった（震災の年は休会）。

今回も四月の第一土曜日、七日に昨年と同じ目黒の中華料理「香港園」に、仙台地区から三名、むつからも一名の参加を得て、計二十名が集った。

いつものように話題は故郷の同期生の誰彼のことから始まって、病気の話、趣味や旅行の話、孫の世話からひ孫が生まれた話まで、尽きることなく続いた話の続きはまた来年ということで再会を約し、三時間近い集いをお開きにした。元気に現役で仕事をしている者がいる一方で、昨秋、会の常連が一人亡くなった。

私たちの学年がむつで初めての同期生の集いを催したのは、中学を卒業して三二年後の一九九三年であった。その後も地元の幹事諸君の世話により、「還暦の集い」を二〇〇六年に、元気なうちにと二〇一二年に、「古稀の集い」を二〇一五年に行うことが出来た。

二〇一六年以降は関東地区の同期会である「安堵会」が、むつをはじめ東日本各地の同期生に呼び掛けて「集い」を継続している。

今年も、下北の四季を撮り続けている同期生が送ってくれた写真を表紙にして「しおり」を作り、五十余名の近況報告をまとめた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

訃報

今井　勲（第8期）さん

仲間と肩を組んで校歌斉唱する今井勲・元副会長

元大湊高校東京同窓会副会長の今井勲さんが平成29年7月13日に心不全のためご逝去されました。

前号に掲載した佐々木顧問の「東京支部創立かけある記」にもあるように、今井さんは東京支部（現・東京同窓会）設立の中心人物であり、設立後も事務局長、副会長などを歴任、五十年近い長年に亘ってこの会の発展に多大な貢献をなされました。

近年、体調不良のため同窓会活動を自粛されておりましたが、平成28年6月の定期総会に久しぶりにご出席され、昔からの仲間と語り合い、最後の肩を組んでの「校歌斉唱」まで楽しんでおられました。

ご冥福をお祈りいたします。

（この追悼記事は佐々木彦蔵顧問が編集した「在りし日の今井勲さんを偲んで」をアレンジしたものです。Y・T）

編集後記

■「下北逍遥」を始めた五年前からいつかはやろうと思っていたねぶた特集、五回目にして漸く出来ました。特集ページ以外にも1・3・6ページにねぶた関連の記事や写真を載せています。載せたくても適当な写真がなくて載せられなかったものもあり、目論見通りの仕上がりにはなりませんでしたが、致し方ありません。特に昭和四十年代以前の写真や資料が少ないので地域文化の記録継承の観点からも、お持ちの方のご協力が望まれます。今回写真や情報を提供してくれた方々には御礼申し上げます。■「下北逍遥」だけでなく「なかま」全般や東京同窓会について感想やご意見を、また「なかま」に掲載してほしい原稿等もお寄せ頂ければ幸いです。■大湊高校は今年度創立七十周年を迎えました。校章が一度変更になっております。6期生まで使われた創立当時の校章を載せておきます。

上・帽章
下・襟章
加藤昌治氏（6期）所有

発行　青森県立大湊高等学校　東京同窓会
編集　立花善裕（19期）
題字デザイン　畑中皓二（5期）
事務局　〒113-0034　東京都文京区湯島3-19-7-403
事務局長　近原徳芳（26期）TEL 03-3836-3766
印刷　N's Digital Factory

むつの便りは"やなぎや"のお菓子で…

YANAGIYA

●田名部ばやし
●おおみなと
●フライボール
●寒立馬サブレ
●他 銘菓各種

緑町本店　むつ市緑町17-58　T.0175-28-2880
金谷店　むつ市金谷2-7-11　T.0175-23-6720
URL.http://o-yanagiya.jp

代表　柳谷一雄　第5期生

プラザホテル むつ　THE PLAZA HOTEL MUTSU

〒035-0061 青森県むつ市下北町2-46（JR下北駅前）
TEL 0175-23-7111（代）
FAX 0175-23-7770
クラス会・同期会・親戚会等に
落ち着きのある和風ダイニングと安らぎのある客室で……
JR下北駅より2分